

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

差別を許さない生徒を育成するため、「優しいチカラ」と「社会につながる学力」を育てるインクルーシブな総合学科高校

- あらゆる差別を許さない生徒を育成する学校
- 人を思いやり、自分を鍛え、未来を描く「優しいチカラ」と「信頼」を育てる学校
- 選択や体験によって他者や世界から学び、社会とつながる学力を育てる総合学科高校
- お互いの人権と多様性を認め、誰もが自分の居場所があるインクルーシブな学校

2 中期的目標

- 建学の精神に基づくスクールミッションの定着を図り、カリキュラムおよび観点別評価の枠組みを完成させる
 - 建学の精神に基づくスクールミッション・スクールポリシーの策定・定着を図る
令和6年度から学校運営の中核となるスクールミッションの策定・定着を進める中で、3つのスクールポリシーを策定をおこなう。
 - 学習者主体の授業を行い、観点別評価の定着を図る。
 - 松高総合学科「ライフワーク」(「産業社会と人間」「課題研究」「論理コミュニケーション」)によって、学びのベースとなる「学び方を学ぶ」(メタ認知の力)プログラムを展開する。入学時より、社会の現実をテーマに、主体的に関わり、協働し、伝え、振り返るプロセスを積み重ねる。
 - ユニバーサルな授業づくり、ICT を活用した基礎的環境整備、「視覚化・構造化・協働化」を進めると同時に、GIGA スクール構想に基づく「1人1台タブレット」の活用による反転授業、オンラインでの学びを進める。
※生徒向け学校教育自己診断における「分かりやすく集中して勉強できる授業が多い。」の肯定的回答を令和7年度まで80%以上を維持する。(R2:65.2%R3:79.1%R4:72.9%)「教え方に工夫している先生が多い」の肯定的回答を令和7年度まで、80%以上を維持することを目標にする。(R2:73.7%、R3:83.3% R4:79.2%)
 - 高等学校における通級指導教室および自立支援コースの授業の内容創造によって自立できる力を育てる。
 - 6年めとなる通級指導教室の授業「ライフスキル」の内容深化を専門家参加による通級チームによって行い、発達障がいをはじめとする支援の必要な生徒に対しソーシャルスキルの獲得と社会的自立を促進する高等学校段階でのカリキュラムの充実を図り、自立支援コースの指導のノウハウを生かす。
※通級指導を受けた生徒の満足度を令和6年度80%以上をめざす。(R2:100%、R3:100%、R4:100%)
- お互いの人権と多様性を認め、誰もが自分の居場所がある人権教育・インクルーシブ教育の推進
 - 生徒が主体となるピアエデュケーションを大切にしたい人権教育プログラムづくり
 - 1学年のHR寄宿を契機に信頼できる居場所づくりによって、違いを認め合い、自己開示ができる関係づくりを人権学習の基本に置く。
 - 当事者との対話、生徒どうしの対話を重視したピアエデュケーションを実施し、生徒誰もが当事者として人権学習に取り組む態度を養う。
 - 2年次研修旅行やオンライン交流によって、同世代の高校生や市民との交流を進め、多様性を認め合う態度と行動を育てる。
 - 「仲間の会」「るるく」「ピアカウンセラー」「松高きっちゃん」「スタディツアー」「ピースワーク」等自主活動の発展、小中学校等の出前授業等を行う。
 - 教職員の人権研修を更に充実させ、校外で受講した研修については、成果を校内で還元する。
※生徒向け学校教育自己診断における「さまざまな人権や命の大切さを学んだ。」の肯定的回答を令和7年度には90%に上げる以降維持する。(R2:88.6%、R3:94.2%、R4:85.2%)
- 生徒支援と地域連携のための学校内外でのネットワークづくり
 - 教育相談担当者会議を中心とする支援ネットワークの体制づくり
 - 教育相談担当者会議を毎週開催し、人間関係や心理的な課題への配慮、虐待などによる社会的支援の必要な生徒の情報を共有し、各学年、学校全体への周知を図る。ケース会議の開催によって本校 SC、SSW や福祉機関、NPO との連携を図り生徒支援を行う。
 - 課題を抱える生徒フォローアップ事業等を通じ、地域 NPO と連携し、「松高きっちゃん」(松高版子ども食堂)など厳しい生活状況にある生徒への居場所の提供と生徒たちのエンパワメントにつながる機会を保障する。
 - 遅刻・欠席の多さから学校から離れがちな生徒への支援のため、基本的な生活習慣の確立をめざす。
 - 自立支援コーディネーターを中心とする障がいのある生徒支援
 - 自立支援コース、通級指導教室の生徒のニーズの把握と学習支援の課題を共有し、障がいのある生徒のトータルな支援をコーディネーターなどと教育相談委員会、学年と連携して行う。
 - 高等学校支援教育力充実事業の支援教育サポート校として、教育実践の一層の充実を図り、他校への発信と支援の充実を引き続き行う。
 - 各中学校との連携を深め、中学校訪問、出前授業、生徒情報交換の機会を充実する。
- 総合学科としての多様な進路実現に向けたキャリア教育の推進
 - 総合学科のシステムを活かしたキャリア教育を実施し、生徒の多様な進路実現を図る。
 - 引き続きコロナ禍の影響を受ける進路状況が踏まえ、統一用紙の精神や一人一社制という高校生の権利を守る進路保障を行う。
 - 看護・福祉・保育・教育を中心に実習体験を拡充するとともに、多様な外部講師を活用する。手話検定や移動支援従業者養成にも取り組む。
 - C-step 等、就労支援機関・福祉機関と連携し、自立支援コースの生徒や他の障がいのある生徒の進路保障を行う。
※進路未定率のさらなる縮小をめざす。令和6年度には5%以下にし以降維持する。(R2:12%、R3:4%、R4:9.6%)
- OJT による教職経験の少ない教職員の育成
開校以来行ってきた複数担任制度を継続し、校内外の各種プロジェクトを活用することにより、教職経験年数の少ない教員の育成を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>●概観</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、あらゆる社会活動の制限がなくなり、学校行事・クラブ活動・自主活動グループなど生徒の主体的な活動を保障できた。 全体的に肯定回答が増加。 今年度は、食堂と生徒自治会の取り組みの結果が反映され、食堂充実の肯定回答が68.7%の過去最多になった。 <p>●主な項目(1, 11, 13)</p> <p>【学校満足度】</p>	<p>第1回(令和5年7月8日(土)実施)</p> <p>50周年を迎え、これまで大切にしてきたエッセンスと今の本質的な問いは何かを考え、何を作るのか、何を壊すのかを、本校教員(卒業生)の座談会を通して言語化していくことをめざした。</p> <p>○松高独自の教育プログラムの中で自分で考え、問いながら体験を通して過ごしてきたこと、人としてできないことを一杯含んでいる人間として高校での学びを通して起こった奇跡であり、松高の究極の姿である。</p> <p>○生徒自身が、自分のことを関心をもって話をしたら受け止めてくれるようなまなざしを持った教員になることが一番大切である。</p>

府立松原高等学校

<p>・項目1「学校生活は充実している」82.1%⇒88.0%</p> <p>新入生のHR合宿をはじめ、「参加」の機運が戻りつつある。学年別にみると、2学年の肯定回答が突出して高く(90.3%)、昨年度(85.5%)と比べても伸びている。</p> <p>・項目2「自分のクラスの居心地がよく過ごしやすい」では、79.6%⇒84.5%</p> <p>3学年の生徒の肯定回答が17ポイント増加している。</p> <p>HR合宿・研修旅行・体育祭・文化祭などの学校行事をコロナ禍前に近い形で実施することができ、生徒たちの学校生活の充実につながっている。</p> <p>【教育相談・支援】</p> <p>・項目9「先生は、生徒の話をよく聞いてくれ、生徒の悩みや相談に親身に応じてくれる。77.0%⇒86.4%</p> <p>・項目11「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」80.3%⇒88.2%</p> <p>複数担任制、生徒支援ネットワークなどのシステムをいかし、生徒へ丁寧に寄り添い支援を行うことにつながっている。一層の教育相談支援への充実へとつなげたい。</p> <p>【授業充実】</p> <p>・項目12「学ぶ意欲が上がるように、教え方に工夫している先生が多い。」79.2%⇒87.3%</p> <p>・項目13「わかりやすく集中して勉強できる授業が多い」72.8%⇒79.3%</p> <p>・項目14「視聴覚機器やツールを使った授業は興味が持てる」</p> <p>授業設計の視点「GOLDEN」理論を共有しながら、組織的な授業充実の取組を行った。あわせて、50周年記念事業において、同窓会・PTAの支援により、23教室に電子黒板付き最新プロジェクターを設置していただいた。授業充実につながり、満足度の数値が増加した。引き続き、授業充実の取組を進めたい。</p> <p>【生活指導】</p> <p>・項目25「生活指導は適切で納得できる」64.3%⇒63.2%</p> <p>満足度としては、微減となった。学校全体でルールの統一化に取り組んでいる。子ども基本法をふまえ、生徒たちの意見を取り入れながらルールの見直しを行うとともに、生徒の納得感を大切に生活指導に組織的に取り組んでいきたい。</p> <p>【人権教育】</p> <p>・項目27「人権や命の大切さを学び「思いやり」の心が身についてきた」84.9%⇒94.4%</p> <p>本校のLHRにおける人権学習、産社・論理コミュニケーション・課題研究などの教育内容から「優しいチカラ」の土台となる「思いやり」の心が育まれている。引き続き、本校の教育内容の充実を図っていきたい。</p>	<p>第2回(令和5年11月17日(金)実施)</p> <p>前半は、1年「産業社会と人間」の授業の見学し、社会の課題を自分事として考えるための工夫を見ることができた。後半の協議会では、本校の授業設計の「GOLDEN」理論における「問いの変換」を説明させていただき、ご意見を頂戴した。多くの授業において、「問いの変換」として、学びに向けて生徒が興味を持ち主体的な学びに向き合う姿勢へとつなげる工夫がある。「問いの変換」として生徒の主体的な学びへと向き合う授業を進める上で生徒理解が大切であるということが確認された。</p> <p>第3回(令和6年2月3日(土)実施)</p> <p>前半は、学校診断自己アンケートの結果やの報告や、今年度の学校評価および次年度の学校経営計画の説明を行った。次年度の学校経営計画について承認を頂戴した。</p> <p>後半は、在校生3名から松原高校3年間での成長や変化について、具体的なエピソードを交えて振り返ってもらった。共通している点は、松原高校が「安心して自己開示できる場」であったということ。自らの大切なルーツや想いに対して、中学校までは話すことができなかつたり、傷ついたりした経験があった。しかし、松原高校で人権学習や課題研究で自分と向き合い、受けとめてもらうことで社会や他者と繋がり、自信を得ることができた。また、その学びが、自分が将来本当にやりたいことは何かという進路実現の原動力となったと語られた。委員である中学の校長先生からは、松原高校にある学びの価値を中学校の先生方にも共有する場や、機会をもっと綿密に作ってほしい。在校生の話を聞かせてもらったことを中学の先生にも共有し、進路指導を行っていくと話をいただいた。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 建学の精神に基づくスクールミッション・スクールポリシーの策定・定着を図る</p> <p>価値の枠組みを完成させる</p>	<p>(1) 建学の精神に基づくスクールミッション・スクールポリシーの策定・定着を図る</p> <p>(2) 主体的な学びプログラムの構築と実践</p> <p>ア「産業社会と人間」等「ライフワーク」の深化</p> <p>イ ユニバーサルな授業づくり及びICT機器の充実</p> <p>(3) 通級指導教室および自立支援コースの授業の内容創造</p> <p>ア通級指導教室の授業「ライフスキル」の充実</p>	<p>(1) スクールミッション・スクールポリシーを建学の精神を生かし、わかりやすい言葉で策定する。</p> <p>(2) ア・「産業社会と人間」など松高総合学科「ライフワーク」によって学びのベースとなる「学び方を学ぶ」(メタ認知の力)実践する。</p> <p>イ・校内ICT環境の整備を図り、オンライン授業、反転授業を含むタブレット端末の授業における活用の拡充する。</p> <p>(3) ア・通級指導教室の授業「ライフスキル」の内容深化を専門家を交えた通級チームによって行ない、ソーシャルスキルの獲得と社会的自立を促進するカリキュラムの充実を図る。</p>	<p>(1) それぞれ300字までのわかりやすい言葉で策定する。新規</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断生徒用「自己表現力」(79.9%)、「コミュニケーション力」(79/9%)、「論理コミュニケーション力」(71.8%)の維持・向上。</p> <p>・総合学科アンケート「学んで良かった」(98%)</p> <p>「「産業社会と人間」は将来の参考になった」(95%)の肯定的回答を維持。</p> <p>イ・生徒自己診断結果 ICT による授業への満足度の維持、向上。(78.4%)</p> <p>(3) ア・通級指導を受けた生徒の満足度90%以上をめざす。(100%)</p>	<p>(1) スクールミッション・スクールポリシーを建学の精神を生かし策定。(○)</p> <p>(2) ア「自己表現力」(89.1%)(◎)「コミュニケーション力」(87.1%)(◎)、「論理コミュニケーション力」(82.8%)(◎)</p> <p>・総合学科アンケート「学んで良かった」(98.7%)(○)「産業社会と人間」は将来の参考になった」(88.6%)(△)</p> <p>イ ICT による授業への満足度の維持(83.6%)(◎)</p> <p>(3) ア 通級指導を受けた生徒の満足度(100%)(○)</p> <p>課題</p> <p>昨年度より、多くの項目で評価が上がった。引き続き、授業、ライフワーク授業などの充実の取組みしたい。</p>

府立松原高等学校

2 人権教育インクルーシブ教育の推進	<p>(1) 生徒主体の人権教育プログラムづくり</p> <p>ア 信頼できる居場所づくり</p> <p>イ 当事者や生徒どうしの対話を重視したピアエデュケーション</p> <p>ウ 2 年次海外研修旅行等による異文化理解</p> <p>エ 部活動・自主活動を充実と地域への出前授業。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・1 学年のHR合宿などによる居場所づくりによって、自己開示ができる関係づくり。</p> <p>イ・当事者や生徒どうしの対話を重視したピアエデュケーション実践の推進</p> <p>ウ・オンラインなどでの海外との交流で多様性尊重の態度を育む。</p> <p>エ・部活動の活発化を促し、中学校との連携を深める。「仲間の会」、「るるく」、「ピアカウンセラー」「ピースワーク」など自主活動を充実させ、小中学校等の出前授業等を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断における「自分のクラスの居心地がいい」(79.7%)の肯定的回答の維持、向上。</p> <p>イ・同「様々な人権や命の大切を学んだ」の肯定的回答(85.2%)の維持、向上。</p> <p>ウ・オンライン交流による満足度80%以上をめざす。(オンライン交流85%)</p> <p>エ・障がい理解やエイズ、国際理解教育に関する小中学校と連携した活動の維持。(8回)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 自分のクラスの居心地がいい(84.5%)(◎)</p> <p>イ 様々な人権や命の大切を学んだ(94.4%)(◎)</p> <p>ウ オンライン交流による満足度(86.8%)(◎)</p> <p>エ 障がい理解やエイズ、国際理解教育に関する小中学校と連携した活動(9回)(◎)</p> <p>課題</p> <p>自分のクラスの居心地がいいの肯定率が上がった。コロナ禍後、HR合宿・体育祭・文化祭などの行事を実施することで仲間との交流の機会が確保できたことが大きい。今後も生徒の居場所づくりにつながる取り組みを実施していきたい。</p>
3 生徒支援と地域連携による信頼される学校づくり	<p>(1) 支援ネットワークの体制づくり</p> <p>ア教育相談委員会の機能充実</p> <p>イ課題早期発見フォローアップ事業</p> <p>ウ基本的な生活習慣の確立</p> <p>(2) 障がいのある生徒支援</p> <p>ア コーディネーター会議を毎週開催</p> <p>イ 高等学校支援教育力充実事業の支援教育サポート校</p> <p>(3) 各中学校や地元の進路関係組織との連携と学校からの情報発信</p>	<p>(1) 生徒指導、生徒支援について全教員が協力し、指導と支援の一体化と支援ネットワークづくりを行う。</p> <p>ア・教育相談委員会を毎週開催し、生徒の情報を共有し、周知を図る。ケース会議を通じ SC、SSW や福祉機関との連携を図る。</p> <p>イ・課題を抱える生徒フォローアップ事業等を通じ、地域 NPO と連携し、「松高版子ども食堂」など生徒への居場所の提供と生徒たちのエンパワメントにつながる機会を保障する。</p> <p>ウ・遅刻・欠席件数の減少のため遅刻指導週間を実施する。(新規)</p> <p>(2) 自立支援コーディネーターを中心とする障がいのある生徒支援</p> <p>ア・コーディネーター会議を毎週開催し、自立支援生、通級指導教室の生徒をはじめ障がいのある生徒のトータルな支援を行う。</p> <p>イ・高等学校支援教育力充実事業の支援教育サポート校として、教育実践の一層の充実を図り、他校への発信と支援の充実に取り組む。(通級教室新規設置校へのアドバイスの実施)</p> <p>(3) 各中学校との連携を深め、成果を発信する</p> <p>ア・生徒情報交換の機会を充実する。</p> <p>イ・各中学校区フェスタへの参加。地域イベント等への参加</p> <p>ウ・総合学科の魅力をより発信できる学校説明会等や発表大会の開催と内容の深化。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断「生徒指導への理解度」(生徒 63.5%、保護者 70.4%)、同「悩みや相談に親身に応じている」(生徒 76.9%、保護者 84.8%)の維持、向上。</p> <p>イ・「松高版子ども食堂」年間 5 回以上開催する。(10回)</p> <p>ウ・遅刻、欠席の3%減少(遅刻 11350 件 欠席8440件)</p> <p>(2)</p> <p>ア・コーディネーター会議の開催(学期に1回)</p> <p>イ・支援教育関係の訪問や研修を年間 5 回以上実施する。(6回)</p> <p>(3)</p> <p>ア・中学校連携の維持、充実。(中学校関係研修、進路説明会等に計10回。中学校訪問のべ47校)</p> <p>イ・出前授業やフェスタへの生徒参加回数を維持する。(7回)</p> <p>ウ・学校説明会での中学生のアンケート回答：大変参考になった(74%)の改善。</p>	<p>(1)</p> <p>ア「生徒指導への理解度」(生徒 63.2%、保護者 63.9%)(△)</p> <p>「悩みや相談に親身に応じている」(生徒 86.4%、保護者 80.6%)(◎)</p> <p>イ「松高版子ども食堂」10回(◎)</p> <p>ウ遅刻、欠席の3%減少(遅刻 6354 件 欠席 10036 件)*2月 22 日段階(○)</p> <p>課題</p> <p>(2)</p> <p>ア コーディネーター会議の開催 時間割の中での会議が定着している。(◎)</p> <p>イ 支援教育関係の訪問や研修 センター研修の講師をするなど自立支援、通級の取り組みの発信はできている(7回)(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア中学校関係研修、進路説明会 10回(○) 中学校訪問(50校)(○)</p> <p>イ教員の出前授業やフェスタへの生徒参加(10回)(○)</p> <p>ウ学校説明会での中学生のアンケート回答：大変参考になった(78%)(○)</p> <p>課題</p> <p>生徒の納得感を得ながら全校一致した体制で生活指導に取り組む必要がある。複数担任制のシステムをいかに、生徒の相談支援の充実につなげていきたい。</p> <p>コロナ禍後、出前授業・フェスタ・自主活動への参加が復活し、地域連携の取り組みが戻りつつあり、引き続き生徒の自主的活動を支援していきたい。</p>
4 総合学科としての多様な進路実現に向けたキャリア教育	<p>(1) 進路保障のためのキャリア教育の推進</p>	<p>(1) 多様な進路の保障と地域で活躍する人の育成</p> <p>・総合学科のシステムを生かしたキャリア教育の推進と人権教育にねざした進路保障。</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒の就職内定率 90%以上(100%)</p> <p>・進路未定率を下げる。(9.6%)</p> <p>・学校教育自己診断でのキャリア教育の肯定的な回答(77.2%)の維持。</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒の就職内定率(100%)(○)</p> <p>・進路未定率(7.3%)(○)</p> <p>・キャリア教育の肯定的な回答(86.7%)(◎)</p> <p>課題</p> <p>引き続きマッチングが適切に行えるよう面談を丁寧にするとともに、進路未決定を減少させる。</p>

府立松原高等学校

5 OJによる教職経験の少ない教職員の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・初任者にも積極的にLHR・SHRで活躍してもらうため校内の初任者研修で複数担任制の良さを伝える。 ・府の働き方改革の方針を受け、定時退庁の確実な実施に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の初任者研修で1回以上複数担任制の研修を実施(2回) ・定時退庁者75%以上の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の初任者研修で複数担任制の研修(2回)(○) 全体的には、校内初任研を310時間程度実施。 ・定時退庁日に退庁できる環境はできてきたが、65.9%程度にとどまっている。(△) <p>課題</p> <p>50周年事業において、式典や記念誌刊行を通じて、生徒へのサポートを大切にするため職員室の大部屋体制や複数担任制についてのシステムの共有を行った。府の働き方改革の10項目を着実に実施していく必要がある。</p>
--------------------------	--	--	---	---